

平成27年度 第3回富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
議事録

日 時	平成27年8月19日(水)			開 会	午後 2時00分
				閉 会	午後 4時05分
場 所	全員協議会室	出席者数	委員定数12名中 出席者10名		
出席者	委 員	鏡会長、昼間副会長、根岸委員、金子委員、齋木委員、 関根委員、長南委員、深野委員、星委員、森田委員 ※欠席 岩村委員、吉田委員			
	事 務 局	【事務局職員】 島田総合政策部長、水口政策企画課長、磯谷政策企画課副課長、 高野政策企画課主任 (株)富士通総研 若生			
配付資料	第3回富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 次第				
公開・ 非公開	公開(傍聴 4名)				

会 議 事 項

1 開会 総合政策部長

2 会長挨拶 鏡会長

3 議事

(1) 意見交換について

意見など

会 長：本日の会議は、御案内のとおり、各委員が感じる富士見市の長所・短所等を意見交換することが目的である。忌憚のない意見をお願いしたい。

まず、はじめに私から意見を述べさせていただく。

○就業時に若者が出ていく富士見市の人口移動の構造が、ららぽーと富士見のオープンで変わっていくだろう。

○富士山が見えることはシンボルとして位置づけられるのではないか。

○農業を中心としたまちづくりが核となるのではないか。

○交通の利便性は高く、空気がきれいで緑が多い。

○比較的安く住宅購入できるなどが特徴ではないか。

委 員：○ららぽーとを巻き込んだイベントを開催していきたい。

○花火大会の復活ができないか。

○富士見市全体で実施するシンボリックな祭りを開催できないか。

○富士見市内を回遊しやすくなるようサイクルシェアができないか。

○富士山が見える特徴を宣伝してはどうか。

○チャレンジショップなどを設置できないか。

○へラブナ釣りのメッカであるびん沼をもっと活用してはどうか。

○各地で地域のコラボ商品を展開している山崎製パンと商品開発でタイアップするとことも可能ではないか。

○ららぽーと富士見の北側の土地で道の駅を整備できないか。

○鶴瀬駅に急行を止められないか。また、東武東上線の高架化もしくは地下化の検討をしてほしい。鶴瀬駅とららぽーと富士見の間にケーブルカーや

会 議 事 項

路面電車が整備できないか。

委 員：土日・日中のみなど、一部時間の急行停車であれば交渉の余地があるのではないか。ららぽーと富士見の北側土地は現在どのように活用されているのか。

事務局：ららぽーと北側の土地はまだ活用していない。

委 員：鶴瀬駅の駅舎自体に魅力がないので、改修ができないか。

委 員：市の特産としては南畑の梨、ほうれん草、きゅうり、焼きびんなどがある。

委 員：○びん沼は生態系も豊かでよい公園であるが、交通手段が乏しい。アクセス手段を持たない人に対する対応を検討する必要があるのではないか。

○市民は市域を意識することが少なく、行動圏で見ることが重要ではないか。

○コミュニティやつながりが作りやすいのは良いまちだと実感できる。以前住んでいた自治体と比較すると公共施設や歩道の整備状況は充実している。

○保育料が高いのは、子育てに適したまちというコンセプトと合っていないのではないか。

○創業時の制度融資は他市よりも条件が厳しいため、制度融資の利用条件等を見直す必要があるのではないか。

○富士見市は市の魅力を伝えにくい。市の魅力を編集する必要がある。

○ゆるキャラなどコンセプト・コンテンツがない中でやっても意味がないので、やめてもいいのではないか。ゆるキャラもメディアの1つと思う。

○地域の情報発信ツールを民間企業が構築しているパターンがある。それらの民間企業とパートナーシップを締結するためのネットワークを形成する必要があるのではないか。

○観光施設などは、観光スポットを横断してまとめる窓口がないのが不便である。一部施設での接客が不親切と感ずることがある。

○市内の自然や農業を教育にうまく活用できないか。

○市内でも地区によってイメージに差があるが、各地区の魅力を高めるようにストーリーを整理する必要があるのではないか。

○富士見市民は転入者に対してもやさしい人が多いと感じる。

委 員：○人口は増加しているが、65歳以上人口は急速に増加している。

会 議 事 項	
	○昼間人口比率は低い傾向にあり、企業誘致が課題となるのではないかな。
	○創業支援認定市区町村の認定を受けていない。
	○交通利便性が高い。場所があれば物流や工場立地のニーズは高いと思う。
	○人口流入は今後も続いていくと思われる。
委 員 :	○高齢化社会に備え、一人ずつきめ細やかなフォローが必要になる。
	○子どもを育てることを核にする姿勢が見えるのは重要である。
	○ホームドクターなどかかりつけ医の取組を検討してはどうか。
	○生涯学習や身近なスポーツに取り組める環境があると良い。
	○市内産の農作物に「富士見〇〇」という名前を付けてはどうか。
	○人が集まるようなにぎわいの拠点を作る必要があるのではないかな。
	○人が歩きやすいまちづくりに取り組む必要があるのではないかな。
	○様々な人材がいるのでうまく力を生かす方法を考えるべきではないかな。
	○軽トラショップの仕組みや買い物補助者がいるとよいのではないかな。
	○都内のある自治体では、高齢者に学校で給食を食べてもらう取組を実施しており、参考になるのではないかな。
委 員 :	○本格的なスポーツ施設が必要ではないかな。
	○市内3駅を結ぶ道路や、都市計画道路整備が遅れている。
	○シティゾーンやリブレーヌ地区を今後どうしていくのか。
委 員 :	○結婚・出産・子育ての一貫した対策により、0～14歳人口をしっかりと維持・確保する必要がある。このままでは調整区域は活力が落ちていく。
	調整区域でも若い人が住みやすくなるような対策をもっと取れないかな。
	○水田整備は進んでいるため、今後は農業の担い手育成が課題になる。都市住民との連携などによる農家経営の収益向上策を進められないかな。
	○土地利用はバランスよくできているのではないかな。工業系・流通系の産業誘致ではなく、病院や学校、教育施設などの誘致を通し、生活を最優先にすることで色を出していくべきではないかな。
委 員 :	○放課後の子どもたちの活動を充実させるべきではないかな。
	○地域住民の教育力を活用するとともに、キャリア教育など体験型の教育を

会 議 事 項

取り入れ、地域貢献できる子どもたちを育成できれば良い。

○子育て支援策として、保育園・幼稚園のあり方、延長保育、人材確保など充実させることができると考えている。

委 員：○「まち・ひと・しごと」は手段であり目的ではないため、どのような目的を達成するのかが分かるような審議会名称に変えるべきではないか。

○コンセプトを新たに作って売り出してはどうか。

○富士見市の規模で市立特別支援学校があることは特別なことである。

○農業と福祉が連携する「農福連携」が国で提唱されており、富士見市でもうまく活用できないか。

○福祉の視点を入れるなど、オンリー1の視点で特産物をつくれないうか。

○地元でまちづくり活動に取り組んでいる市民は財産であることを認識する必要がある。

副会長：○10～20年でどのように地域を活性化していくかというのがポイント。

○既存事業はあり、メリハリをつけて総合戦略を考えていく必要がある。

○若い人をどう支援できるかもポイントになる。市の存亡をかけてもよい。

○若者と福祉という観点で考えると、福祉に対する若者による担い手づくりなどを検討する必要がある。

○ブランドはどこの自治体でも苦しんでいる。方法論の問題ではないか。

○市内産業活性化のため、市内では地場産品を使い、市外からはお金を持ってこることが重要。昼は学校に、夜は飲み屋に農産物を供給するなど継続的に取り組む必要がある。

○ららぽーと富士見に来たお客さんをいかに引っ張れるかが重要である。

会 長：議論についてはメーリングリスト及び次回以降で話をしたいと思う。

本日各委員からの貴重なご意見から、市には気付かないものの良いところが多くあることが分かった。まとめると、既存資源を使いながらまちづくりを進めることが共通の視点だったと思う。作る人・消費する人・発信する人につながりをつくっていくことや、イベント等を開催するだけでなく付加価値をつけてオンリー1としていく発想の転換を大切にしていけるべきだろう。

会 議 事 項

今あるものを有機的につないでいくことがまちづくりの有効な戦略と考える。

今回の意見は、もう1回事務局で各章に落とし込んで整理することが良いのではないかと思う。これに庁内で検討している計画をあわせていけばいいのではないか。細部の調整は会長・副会長・事務局で実施させてもらいたい。

(2) 次回審議会の日程について

事務局：10月13日（火）13時から開始する。会場は追って連絡する。

(3) その他について

事務局：結婚・出産・子育てに関するアンケートの回収率は約35%、転入についてのアンケートの回収率は40%程度である。

来年度以降の新型交付金の詳細な内容は国からまだ示されておらず、来年度の概算要求は約1,000億円と聞いている。交付金は半分程度になることが予想され様々に事業が展開できるようになることは想定しづらいが、必要な事業は取り組んでいきたい。

4 閉会 昼間副会長